

ずいそう

継続の大切さと責任

島田 延昭



50周年を迎え更に、これからの50年に向け……「この道より、我を生かす道なし、この道を歩く」（小説家 武者小路実篤先生）自分に言い聞かす好きな言葉を信条とし…1966年原田商事(株)に入社、当時全社員7名の建設機械の販売商社に身を投じて現在46年間(以前関係他社4年間在籍)計50年建設関係業界に関わってまいりました。入社当時は、土木工事も機械化施工が取り上げられ時流に沿って取り組んでまいりました。当時は、地元島根県内と鳥取県西部を中心に活動し、機械ブームに後押しされ、寝る間を惜しんで商売が出来ました。その後、各県内に営業所やサービス工場等拠点を設け会社を拡張出来ました。当然競争相手も各地域に増えました。また、山陰地区にも遅ればせながら1977年(昭和52年)頃から建設業界も財務体質の面からもレンタル・リースの要望が高まり我が社も建設機械のレンタル・リース部門にも取り組み始め1983年(昭和58年)に(株)原商に社名変更し「売ります、貸します、直します」をキャッチフレーズとし事業を拡張してまいりました。更に建設産業従事者に必要な特定自主検査、運転に係わる特別教育、職長安全衛生教育等々、弊社3名のスタッフが専従し安全セミナー、技能講習を実施し地域の建設産業業界のお役に立てばと思ひ取り組み続けているところでございます。現在は、介護福祉商品のレンタル部門や更に拠点も東京営業所や鳥取支店へと拡張してまいりました。また関連会社として(株)サンテック(オフィス商品、家電商品、花木、イルミネーション)、(株)ラビット(自動車の販売、整備、車検)等にも事業を拡張させております。

しかし、日本経済も1997年3月頃をピークに下り坂に転じ財政再建を目指した公的需要の削減、大手金融機関の破綻、社会補償制度や福祉政策も重要ですが、近年の超円高、エネルギー問題等、港湾施設や、橋梁等の耐震化への対策、私達の住む地域はインフラ整備

が遅れ毎年のように道路、河川、港湾等の災害に遭遇、コンクリートが人命や地域を守る、また、山陰自動車道の早期全線開通等々と、しっかりした基盤整備が何より求められています。当然私達の建設産業業界も厳しい環境下に、生き残りを賭けた事業運営に取り組みなくてはなりません。

1947年(昭和22年)～1949年(昭和24年)団塊の世代の人達が戦後日本の復興、日本の企業を支えて来たメンバーが一斉に定年退職を迎え社会に大きな影響をもたらす、彼らの蓄えた技術や能力、人脈を失い会社の存続に不安を投じることもなりかねません。そこで私たちの各々の会社の役職員、所属長、工場長等の責任が問われる訳です。いつも私は口癖のように、会社は私たちの「預かりもの」である、時が来たら部下に引き継ぎ更に発展、成長へと、係わる多くの人々から信頼される人を育て、後世に引き継ぐ重要な職務があり、その為にも数年前から、自分なりに思考錯誤しながら体制づくりの責任を感じるところです。私達の関係するところでも、後継者が育ってないばかりに永年培われた会社を解散、倒産に追い込まれた企業も多くありました。存続する為に大切なこと…、その為の条件は、各社それぞれ異なることでしょう、利益を得るのも存続の条件だけど… 先ず地域社会に必要とされる企業に… 昔からの諺に、「企業は人なり」と教えられました。人材育成の責任の重さ… 更に、弊社これからの50年を… 社員同士、お得意先、メーカー及び商社、協力業者、関係団体企業等々、「絆」を更に強く、太くして取り組み会社存続の為の条件を共有し、社員を信じて我が社が地域業界に、いつ迄も必要とされる企業で在るが為に歩きたいと思ひます。